

## 小学校生活科における歴史学習の可能性

### —歴史的实践に基づく小学校低学年の歴史学習—

紙田 路子

岡山理科大学教育学部初等教育学科

(2021年10月12日受付、2021年12月9日受理)

#### 1. 本研究の目的と方法

本研究は、小学校生活科における歴史学習の在り方について提案し、その授業設計について論じようとするものである。

平成元年版の学習指導要領において、生活科が小学校第1学年と第2学年に設置されてから30年近くがたとうとしている。小学校生活科の目標は「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」にある<sup>(1)</sup>。つまり、「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」が生活科の意義であり、その方法として「身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと」が掲げられているのである。

実際に各学年の目標及び内容では、「学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して」「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して」「自分自身を見つめることを通して」等、自分と身近な人々、自然、社会生活との直接的なかわりを重視している。このような直接経験が子どもの知識創造に果たす役割について、寺西は「経験が出自する『日常世界』『生活世界』は認識のための座標軸を提供し、状況や文脈という世界を構成し、それらのネットワークの中で知識や事実の客観的位置づけを鮮明にし、意味の把握、理解を可能にする」<sup>(2)</sup>と述べている。特に、生活科においては、個人が自己を取り巻く自然、社会、他の人々との間にどのような意味ある関係を築くのか、またそれをどのように自覚できるかが課題となる。このような生活科の基盤があってこそ、子どもは第3学年以降で学ぶ社会科、理科の学習内容を、自分たちの経験に関連付けながら理解していくのである。例えば、生活科の「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」及び「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」は、第3学年の社会科の内容、「地域の安全を守る働き」「身近な地域や市区町村の

様子」「地域にみられる生産や販売の仕事」につながるものであろう。生活科での直接経験をもとに、彼らは社会を自分たちにとって関わりのあるもの、意味あるものとして主体的にとらえ学んでいくのである。

しかしその一方で、小学校生活科では、歴史に関する経験は必ずしも重視されていない。

大学1年生を対象に行った社会科に関するアンケートの「社会科を好きか嫌いか」の問いの答えの根拠として、学生が挙げるのが歴史学習である。「社会科が好き」と回答する学生は、「昔の人の生き方や出来事を知れて面白いと思ったから」「戦国時代が好きだから」「偉人が残した言葉・発見したことを知るのが好き」、「社会科は好きではない」とする学生も「人の名前とかいろいろ覚えるのが苦手だから」「昔のことに興味を持ってない。必要と思えることが少ない」等、それぞれ歴史学習を理由にする学生が多い。もちろん、歴史学習以外を「好き・嫌い」の根拠にする学生もいる。その理由は「生活している中で触れる機会が多いから(公民)」「地理を知っておくと歴史や国語の分野で背景を把握しやすいから」「ニュースなど、今起きていることに着目することで、知らないことを知ったり、新しい見方ができたりして関心が生まれるから」というものである。つまり歴史以外の分野を理由とする学生は、「自己にとっての社会科(役に立つ・新しい見方ができる・生活の中で触れる機会)」という観点から判断しているのに対し、歴史は「～するのが好き」「覚えるのが苦手」等、自己の日常から切り離して考えている学生が多いことがわかる。このような、歴史を現実から切り離す、いわば知識偏重の歴史教育は、社会科教育において常に批判の対象となってきた。それに代わる歴史学習のあり方として「歴史する(doing history)」授業が、注目を浴びている。例えば保莉実は、歴史を生産・維持しているのは歴史学者だけではなく、むしろ誰もが普段から「歴史実践

(historical practice)」を経験していると主張する。保莉はこの歴史実践の経験を「歴史する (doing history)」と表現し、近所の名所旧跡を訪問したり、歴史を主題にしたドラマやゲームを楽しんだりすることなど、人々の幅広い営みを「歴史する」に含めている<sup>(3)</sup>。つまり学問的であるとみなされない人々 (自分や身近な人々) の語りを歴史学習に取り入れることで、子どもたちは「自分と歴史」の関係を意識し、歴史を学ぶ意味を実感できるのではないか。

本論では、このように小学校低学年の学習、特に小学校生活科において「歴史」を扱うことの意義について、明らかにし、「歴史する (doing history)」の観点から具体的な授業プランを作成することを目的とする。

## 2. 低学年における歴史学習の分析

平成28年12月の中央教育審議会答申では、生活科における「見方・考え方」として、①対象を自分との関わりで捉えることとともに、人々、社会、自然を一体として捉えることが特徴であること、②具体的な活動や体験を通して捉えた対象については、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握すること、③新たな活動や行動を創り出していくことを通して、自分自身や自分の生活について考え、そこに新たな気づきを生み出すことを示している<sup>(4)</sup>。そのような見方・考え方を通して子どもは対象のよさや特徴、自分との関係や、対象同士の関わりに気付いていく。そして答申では、その内容構成の基本的な視点として「自分と人や社会とのかかわり」「自分と自然との関わり」「自分自身」の3つのかかわりを示している。

歴史の見方・考え方もまた、子ども自身と歴史のかかわりに基づいて形成される。このようなかかわりはあくまで個人的な経験であるため、形成される歴史の見方・考え方は、各種の環境をまたいでも保持されるような個人の認知の性質ではなく、文脈次第で個々人の行動が異なる社会的実践として、捉える必要がある<sup>(5)</sup>。つまり直接的な「自分と歴史とのかかわり」が重要になるのである。

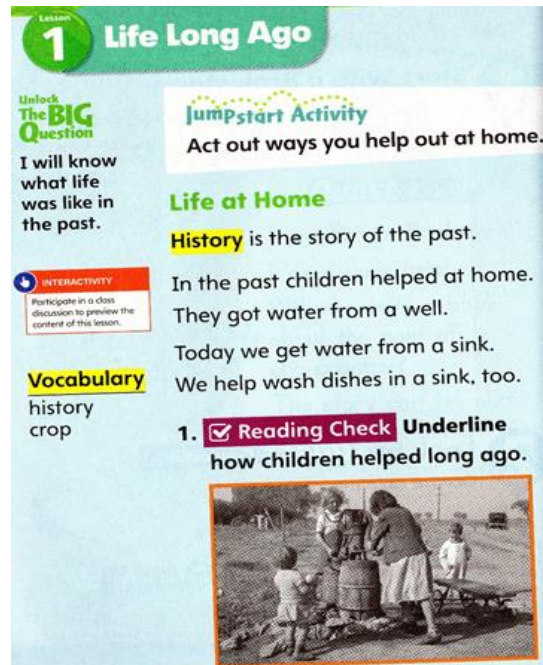
直接的な「自分と歴史の関わり」を保障する歴史教育とはどうあるべきか。アメリカ幼児教育における歴史教育と日本の生活科で行われた歴史に関わる学習を分析し、検討していく。

### 1-1 アメリカ・幼稚園教科書「my World」における歴史学習

資料1は、幼稚園 (K-1) 教科書「my World」のChapter6「Learning About the Past (過去について学ぶ)」<sup>(6)</sup>の一部を示したものである。Chapter6は3つのlesson

から構成されている。

資料1 幼稚園 (K-1) 教科書「my World」のChapter6「Learning About the Past (過去について学ぶ)」



Lesson1「Life Long Ago」では写真資料やイラストを通して、家事、食べ物、衣服、遊び等の昔と今のくらしを比較する。Lesson2「People in History」では、地域に貢献した人物の学習をする。取り上げられている人物は、Daniel Boone (探検家：開拓した土地に道や人々が住む家をつくった)、Clara Barton (奉仕活動家：戦争中の兵士をケアした)、Booker T Washington (教師：アフリカ系アメリカ人コミュニティのリーダーとなった) である。いずれも地域の人々の生活の向上やケアに尽くした人々が取り上げられている。

Lesson3「We Celebrate Our Past」は記念日について考える学習である。4つの記念日 (「Columbus Day」「Labor Day」「Days for Our Solders」「Dr. Martin Luther King Jr. Day」) の意味とその記念日に関わる人物の歴史や功績を学ぶことを通して、日常生活と歴史のかかわりを意識させるものとなっている。

このように「Learning About the Past (過去について学ぶ)」では、身近な生活、今の自分の生活 (地域) に関わる人物、そして記念日について歴史的な視点からとらえることで、自己の立場や生活から歴史の意義を理解させるものである。子どもは、教科書の写真やイラストからわかることを話し合ったり、「どうやってClara Bartonは人々を助けたのか」想像するイラストを描いたりして友達と交流し合いながら、自らの歴

史解釈をつくり上げていく。

## 1-2 小学校第2学年単元「こんにやく閻魔について考える」の実践

第2学年単元「こんにやく閻魔について考える」は令和元年に筑波大学附属小学校において梅澤が行った授業実践である<sup>(7)</sup>。

「こんにやく閻魔」(資料2)とは、幻覚寺(東京:文京区)に存在する、鎌倉時代、運慶派の仏師の作と推定される木造閻魔王坐像である。

資料2 こんにやく閻魔(幻覚寺)



この閻魔像の右側の目が黄色く濁っているのが特徴である。これについては以下のような伝説がある。宝暦(1751年-1764年)に一人の老婆が眼病を患いこの閻魔大王像に日々祈願していたところ、老婆の夢の中に閻魔大王が現れ、「満願成就の暁には私の片方の眼をあなたにあげて、治してあげよう」と告げたという。その後、老婆の眼はたちまちに治り、以来この老婆は感謝のしるしとして自身の好物である「こんにやく」を断って、ずっと閻魔大王に供え続けたという。以来、この閻魔王像は「こんにやく閻魔」「身代わり閻魔」の名で人々から信仰を集めている。現在でも眼病治療などのご利益を求め、閻魔像にこんにやくを供える人が多いという。

この「こんにやく閻魔」を題材とした梅澤の授業の目標は「こんにやく閻魔にお願いをすると、目が治るのか否か」価値判断をする話し合いを通して、「こんにやく閻魔の社会的価値を考える」ことである。実際の授業の概要は以下の通りである。

### 【授業の展開】

- ①これまでのこんにやく閻魔の学習を想起する。  
(見学の様子、自分で調べたこと等)
- ②「こんにやく閻魔にお願いをするとよくない目が治るのだろうか」について、考え話し合う。
- ③「治るか治らないかわからない、こんにやく閻魔が

なぜ400年も大切にされてきたのか」考える。

- ④今日の学習で考えたことをノートにまとめる。  
→「こんにやく閻魔」についての多様な社会的価値の理解。

以下は実際の授業で子どもたちの話し合いの様子を、著者が手書きで記録したものである。

### 【第2学年単元「こんにやく閻魔について考える」授業記録】

T: 教師 S: 子ども (番号は発表順)

T: (こんにやく閻魔の見学に行った時の様子を写真で見せる。)

S m: (子どもたちは口々にその時の様子を話し出す。)

T: みんなこんにやく閻魔さまの見学に行ったよね。

そこでわかったこと、していることは何かな?

S 1: 右目が黒い。

T: なんで黒いの?

S 2: (こんにやく閻魔さまが) 右目が悪いおばあさんにあげたから。

T: 右目だったっけ?

S m: (「右目だった!」と一斉に反応)

T: なんで(こんにやく閻魔さまは) 右目をあげたの?

S 3: (おばあさんが) 毎日お参りにきたから。

S 4: (おばあさんの) 目が病気だから。

S 5: だから閻魔さまが右目をあげた。

T: それでどうなった?

S 6: おばあさんは治った。

T: (右目のこと以外で) 何かありますか?

S 7: (こんにやく閻魔さまは) 400歳。

T: 400年前からあるんだ!

S 8: 先生、調べたこと言っている?

S 9: 閻魔さまは天国と地獄の間にいる。

S 10: こんにやくが大好き。

T: 誰がすきななの?

S 11: 病気のおばあさんが大好き。

S 12: お礼に閻魔さまにあげた。

S m: (えー! お礼じゃないよ)

T: お礼じゃないの?

S 13: お礼でもある。でもお願いのため21日間あげた。

S 14: 治った後もあげた。

T: 誰が(こんにやくを) 好きなの?

S 15: おばあさん。

S 16: それまではふつうの閻魔さんだった。

T: じゃあここまでのみんなの発言をノートに書いてみよう。

T : こんにやく閻魔さまにお願いすると、本当に目が治るのかな？自分の考えのところに名札をはってみましょう。理由も考えてください。

(「治る」が12名、「治らない」が2名、「どちらともいえない」が15名)

T : どちらの意見から聞こうかな？

S m : (「治る」から聞きたい！)

T : じゃあ、「ぜったい治る」人から聞いてみよう。「ぜったい治る」のはなぜ？

S 17 : おばあさんの目が本当に治ったから。

S 18 : 本当に閻魔さまの目が黒くなったから。

S 19 : 信じている人がいる。目の不自由な人が治ってほしいと強くねがっている。

S 20 : いいことをしていると治る。

T : なんでそう思ったの？

S 21 : 閻魔さまだから。

S 22 : 閻魔さまの目が無い。こんにやくをお供えしたから。

S 23 : 心から願っていたら叶う。でも努力しないとだめ。

S 24 : 閻魔さまは自分の目を犠牲にしている。だから治らないと意味がない。

T : じゃあ「絶対治らない」という意見の人。

S 25 : こんにやく閻魔さまはもう死んでいるから無理。

T : 閻魔さま、死んじゃったの？

S 26 : 天国と地獄の間にいる。

T : なんで死んでるの？

S 27 : 木像になっているから。

S 28 : あと一人としか目が交換できない。

S 29 : そもそも閻魔さまがいるかもわからない。

S 30 : (おばあさんは) たまたま治ったのかもしれない。

S 31 : 悪い行いをしている人はだめかも。

S 32 : 努力しないとだめ。

S 33 : 現在いるかどうかもわからない。

S 34 : お供え物をすれば、治るかもしれない。

T : (こんにやく閻魔さまの仏像がある神社の写真をみせる。閻魔さまの前には、大量のこんにやくとお酒が置かれている)

T : 閻魔さまの前にはたくさんこんにやくがあるね。なんでだろう？

S 35 : こんにやくをあげている人がたくさんいる。

S 36 : 目を治したい人がたくさんいる。

S 37 : 体のどこかが悪い人が、(おばあさんの) 真似して治るかなと思っている。

S 38 : 友達が治るようにとお祈りする人もいる。

T : お酒もあるね。

S 39 : 飲み物がないと死んじゃう。

S 40 : こんにやくだけだとあきる。

S 41 : 閻魔さまがこんにやくがあんまり好きじゃない。

T : 近くの人と話し合っしてほしいんだけど、治るか治らないかよくわからないのに、なぜ400年間も、今でもこんにやくを供えているのだろう。おとなり同士で相談してみて。

(話し合い後)

S 42 : 一人を直したら他の人はもう治せない。だから治せない。

S 43 : 安心感。(お祈りすることで)

S 44 : こんにやくを供えることがブームになっている。

S 45 : 閻魔さまの残っている眼は左目だけ。一人だけ治してほしいから。

S 46 : それを信じる人がいるから。

S 47 : おばあさんの話を信じる人がいるから。

S 48 : 今も目の悪い人がいる。

S 49 : 400年前の話を信じている人がいるから。

S 50 : 閻魔さまはやさしいから。

S 51 : また治るかもしれないから。

S 52 : とても貴重なものだから。

S 53 : こんにやくをお供えしている人がいるから。

S 53 : ほかの部分も直してくれるように。

T : みんなが閻魔さまを信じているんだね。では今日気づいたことをノートに書きましょう。

「こんにやく閻魔」に関わる逸話は「超自然的」で「霊的」な歴史の語りである。「こんにやく閻魔にお願いすればよくない目が治るのだろうか」という問いを受けて、子どもたちは、「いいことをしていると治る」「閻魔様は自分の眼を犠牲にしている。だから治らないと意味はない」、あるいは「あと一人としか眼を交換できない」「お供え物をすれば治るかもしれない」など、こんにやく閻魔に関わる逸話を自分の生活に引き付けて解釈している。

さらに本時の目標に迫る教師の問い、「治るか治らないかよくわからないのに、なぜ400年間も、今でもこんにやくを供えているのだろうか」に対して、子どもたちは「安心感」「ブーム」「直してほしいという気持ち」をその根拠としてあげていた。歴史が語り継がれるのには意味がある。400年前の「こんにやく閻魔」の逸話が令和になっても伝えられているのは、人々のそうした思いや願いによるものである。子どもたちは授業での話し合いを通して、歴史の語りと人々の思いや願いの関わりを理解したと言える。

表1 「my World」と「こんにゃく閻魔について考える」における歴史教育の比較<sup>(10)</sup>

	暗記型歴史学習	「my World」(実証主義に基づく学問的アプローチ)	「こんにゃく閻魔について考える」(歴史実践を重視するアプローチ)
解釈	絶対的	相対的	相対的
アプローチ(方法)	絶対的	絶対的	相対的

### 3. 小学校生活科における歴史学習のアプローチ

アメリカにおける幼稚園の歴史教育と梅澤の実践はともに、「子どもの日常に引き付けて歴史を理解する」という点では共通している。「my World」では、子どもの日常生活、地域の偉人、記念日に焦点を当て、歴史と自己の関わりについて追求させている。梅澤の授業では、地域の歴史遺物の逸話と人々と関わりについて考えさせることで、歴史と人々のつながりに気付かせる授業展開となっている。

異なるのは追求の方法である。「my World」では、資料の読み取りが中心である。この学習以前に「Using Primary and Secondary Source」という作業単元があり、子どもたちの第1次資料と2次資料の特徴とそれらの持つ意味を学んでいる。つまり、「my World」は、資料の読み取りを通して、子どものオリジナルの歴史解釈を作り上げることを目的としている。

梅澤の実践では、直接体験を重視している。「こんにゃく閻魔」の2度にわたる見学、住職への聞き取り、または参拝する人や家族を含めた地域の人々へのインタビューを通して、子どもたちは、自分の生活に引き付けて「こんにゃく閻魔」についての歴史解釈を作り上げている。

「my World」のアプローチは、実証主義に基づく歴史学の学問的アプローチの再現と言えよう。つまり、史料を読み取り、解釈を構築する歴史学者のプロセスを歴史授業に応用しようとする方法である。このアプローチの第一の課題は、歴史学の学問的アプローチ以外の解釈を排除することにある。つまり、そのアプローチを絶対視し、他のアプローチについては「科学的でない」「合理的でない」「実証的でない」と排除することにある。渡部は「このことが多文化社会や参加民主主義の実現に逆行するおそれがある」<sup>(8)</sup>と懸念を示している。第二の課題は、子どもが歴史を学ぶ意味を考える機会をなくしてしまうことである。子どもたちが学問的アプローチに必要性を感じない文脈において、歴史学の学問的アプローチに一元化することは、子どもたちの歴史を学ぶ意味を無視することに繋がるのである。

一方、梅澤の実践は歴史実践の経験を重視するアプローチと言える。歴史の語りや人々の営みの一環としてとらえるこのようなアプローチは、民間伝承や地域文化としては受け入れられるかもしれないが、史学者としてこれらの歴史を学会で発表すれば受け入れられなくなってしまう。歴史は本来、それを語る位置や立場によって、その真実性が多元化・異化されるものになるにもかかわらず、学術研究者(歴史学者)という発話位置に立つと、限られた人々の歴史の声しか拾い上げることができなくなってしまう<sup>(9)</sup>。現行の社会科授業における歴史学習とは、このような「限られた人々の歴史の声」、すなわち科学的根拠に基づくと評価された歴史の見解によって構成されたものである。子どもが歴史教育を「受験のためのもの」「暗記科目」として、自己と切り離してとらえる所以であろう。

この2つの違いをまとめたものが表1である。実証主義に基づくアプローチは、暗記型歴史学習に対して多様な歴史解釈を保障するかもしれないが、学問的アプローチを絶対とするため、多文化社会のあり様と適応せず、子どもが歴史を学ぶ意義を実感できない可能性もある。一方、歴史的实践を重視するアプローチは、学問的アプローチとは異なり、自己の生活の文脈から歴史事象を解釈することになるため、多文化社会への寛容や歴史を学ぶ意義を理解できるものとなっている。

小学校生活科の「自己とのかかわりを通して、社会、自然を理解する」という教科の目的からすれば、生活科で行う歴史学習としてふさわしいのは、歴史的实践を重視するアプローチであろう。

### 4. 小学校生活科における歴史学習の構想

梅澤の「こんにゃく閻魔について考えよう」の授業は、子どもの「歴史する(doing history)」保障する実践と言えるが、十分ではない。こんにゃく閻魔と自分、あるいは自分の身近な人との関係ではなく、「こんにゃく閻魔をお参りしている」人々との関係を推察することで終わっているためである。小学校生活科は直接経験を通して、社会、自然、そして身近な人々の関係の中での自己のありよう、すなわちアイデンティ

表2 小学校生活科「歴史する (doing history)」の授業構成

学習段階	各段階におけるゴール
1. 日常の中の「歴史」に気付く。	・史跡、お寺、昔話、記念日など、過去のできごとと現在や未来に残すための工夫を日常生活から見つけることができる。
2. 日常の中の「歴史」の意味に気付く。	・史跡、お寺、昔話、記念日など過去のできごとを現在や未来に残そうとする工夫には人々の思いや願いがこめられている。
3. 自分や家族など身近な人の過去の出来事をふりかえる。	・自分や家族等身近な人々の過去の出来事を想起し、記録する。
4. 過去の出来事を価値づける。(過去の価値化)	・現在の自分や家族等身近な人々にとって意味のある出来事を価値づける。
5. 歴史をつくる。	・4で価値づけた過去の出来事について表現する(再構成する)。

ティに気付く教科である。それは自分にとって意味あるかわりをもった対象への認識でもある。このように自分にとっての自然、社会、家族、学校と、それらの一員としての自己に気付くからこそ、子どもは自分の果たすべき役割や責任を自覚し、「自立」につながっていくのである。それは自己と歴史の関わりについても同様である。

歴史は過去の出来事であり、子ども自身が直接的に関わることは難しいように思える。しかし、日常生活の中に歴史は溢れている。歴史小説や歴史ドラマ、ゲームやアニメ、また、記念日や記念碑、博物館、町のところどころで見かける史跡も歴史の1つである。それらすべてが、過去についての語りであり、当該社会における過去の取扱いを表す。過去の再構成である歴史は現在の認識や未来の志向と結びついており、一定の価値観を根底にもつ<sup>(11)</sup>。日常生活の歴史との直接的なかかわりを通して、その語りの意味を追求する態度を身に付けることは、小学校社会科における歴史学習で語られる歴史的事実を相対的にとらえる態度にもつながってくるものと考えられる。

小学校生活科における「歴史する (doing history)」の授業構成を示したものが、表2である。1～2は日常生活の中の歴史に気付く段階、3～5は自らが歴史を創る段階である。

「1. 日常の中の『歴史』に気付く」は、史跡や寺、神社、昔話、記念日など過去の出来事を今に伝える事物の存在に気付く段階である。身近にある歴史の存在を意識することがねらいとなる。「2. 日常の中の『歴史』の意味に気付く」では身近にある歴史の意味について追求していく。「なぜ昔の人はこれを残したのか」「なぜ現在もまだ残っているのか」追求することで歴史的事物の背後にある人々の思いや願いに気付くことが目的となる。「3. 自分や家族など身近な人の過去をふりかえる。(過去の想起)」では、自分も未来に

残す歴史をつくることを目的として、過去の出来事を振り返る段階である。そして「4. 過去の出来事を価値づける。(過去の価値化)」において、未来につながるべき出来事を選び、「5. 歴史をつくる」において、どのようにすれば未来に残せるか、つなげることができるかを考え、表現する。

過去の歴史的实践を分析するだけでなく、自分もまた歴史を構築する立場に立つことで、自己を時間の流れの中に位置づけ、未来につながることの意義を実感できるようになるものと考えられる。

##### 5. 小学校生活科単元「わたしの記念日」

小学校生活科における「歴史する (doing history)」の授業構想を具体化する単元として、小学校歴史単元「わたしの記念日」を設定した。

記念日は、何らかの物事や過去の出来事を記念する日である。国民の祝日も記念日の一種と言える。記念という語は祝賀を意味する日以外にも使われる。誕生日・結婚記念日・命日などの個人的な記念日のほか、公的な機関が制定した記念日、例えば地方自治体はその地域や特産品をPRするためや、地元で発生した大災害を忘れないために制定した記念日があり、また企業や商店が商品の販売促進などのために制定した記念日もある。すなわち、記念日とは、人々の行動をある一定の方向に導こうとする意図をもって構成されたもの、一定の価値に基づくものと言える。

この記念日の背後にある過去の人々の思いや願いを読み取った上で、自分や身近な人の未来や現在にとって価値のある過去の出来事を選び取り、記念日として意味づけようとするのが、小学校生活科単元「わたしの記念日」の概要である。資料3に授業計画を示した。

資料3 小学校生活科単元「わたしの記念日」の授業計画


1. 目標

- 国や学校、地域の記念日の体験を通して、自分と歴史の関わりについて気づくとともに、過去の出来事を記録し残すことの意味やそれらをよりよい未来につなげていくための方法について理解することができる。(生きて働く知識・技能)
- 日常生活における歴史を自分との関わりでとらえ、自分や身近な人々にとって意味のある過去のできごとを選択し、未来に残すためにそれらを表現・実践することができる。(思考力・判断力・表現力)
- 自分や身近な人々の現在や未来にとって価値のあるできごとを、伝え、残していこうとすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

2. 単元の流れ

第1次 「記念日」ってどんな日？

	教師の発問	資料・体験	予想される子どもの発言
1 日常の中 の歴史に 気付く	<p>1. 記念日とは何ですか。</p> <p>2. 日本の記念日にはどんな日があるでしょうか。</p> <p>3. これらの記念日は何かいいことがあった日なのか。何を覚えておかなくてはならないのかな。 ・自分の気になった記念日について調べてみましょう。</p> <p>4. 記念日について調べたことを発表しましょう。</p>	<p>【授業資料1】 子どもが図工で作成したカレンダー</p> <p>※本やインターネット、聞き取り調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かいいことがあった日。</li> <li>・みんなでお祝いする日。</li> <li>・みんな覚えておかなくてはならない日。</li> <li>・1月：元旦、成人の日・2月：建国記念の日</li> <li>・3月：春分の日・4月：昭和の日</li> <li>・5月：憲法記念日、みどりの日、こどもの日</li> <li>・7月：海の日・8月：山の日</li> <li>・9月：敬老の日・10月：スポーツの日</li> <li>・11月：文化の日、勤労感謝の日</li> <li>・何で休みなのかな。</li> <li>・憲法記念日で集会があるのを見たことがある。</li> <li>・文化の日には、文化まつりがあるよ。</li> <li>・なぜ休みか調べてみたいな。</li> <li>・スポーツの日は、日本ではじめて東京オリンピックが開かれた日だよ。よくスポーツのイベントが開かれている。</li> <li>・勤労感謝の日はもともと収穫を祝う日だった。</li> <li>・建国記念の日は日本の建国を祝う日だ。</li> <li>・それぞれの記念日にはいろいろな意味がある。思いが込められている。</li> </ul>
2 歴史の 意味に 気付く	<p>5. 「スポーツの日」にはどんな思いがこめられているのだろう。 ・なぜオリンピックが開かれた日が記念日になったのでしょうか。</p> <p>・東京オリンピックの様子を見ましょう。(2020東京オリンピックと違うところはどこかな)</p> <p>・なぜオリンピックが開かれた日が記念日になったのでしょうか。</p>	<p>【授業資料2】 東京オリンピックの映像</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ではじめてオリンピックが開かれたからじゃないのかな。</li> <li>・たくさんの人が金メダルをとったからではないのかな。</li> <li>・白黒だ。</li> <li>・ユニフォームが古い感じ。グラウンドや施設も古い感じ。</li> <li>・日本全国が盛り上がっている。表情が明るい。</li> <li>・家族に聞いてみよう。</li> <li>・校長先生に聞いてみよう。</li> </ul>

	教師の発問	授業資料	予想される子どもの発言
2. 日常 の中 の 歴 史 の 意 味 に 気 付 く	<p>6. 調べてわかったことを発表しましょう。</p>  <p>【1964年 東京オリンピック】</p> <p>7. 記念日にはどんな意味があるのでしょうか。</p> <p>8. みんなにとっての記念日は何ですか？</p>	<p>※家族や学校の先生, 地域の人からの聞き取り</p>	<p>・本やインターネットでも調べられるよ。</p> <p>・オリンピックを開けるようになったということはそれだけ日本が戦争の傷あとから元気になったということ。それを忘れないように記念日にしたのではないかな。</p> <p>・オリンピックは世界の選手が集まるスポーツの祭典。みんなで戦争なんかしないで仲良くしようという願いがあるのではないかな。</p> <p>・スポーツの楽しさや運動の大切さをみんなに伝えるためではないかな。</p> <p>・みんなに意味のある出来事を忘れないようにするためのもの。</p> <p>・みんなで過去を振り返って前に進んでいくためのもの。</p> <p>・目的に向かってみんなの心をひとつにするもの。</p> <p>・誕生日</p> <p>・入学式, 卒園式</p> <p>・思いつかない</p>

## 第2次 「わたしの記念日」をつくろう

	教師の発問	資料・体験	予想される子どもの発言
3 4 5 過 去 の 出 来 事 の 振 り 返 り ・ 価 値 づ け	<p>1. 「スポーツの日」のように、「わたしの記念日」をつくりましょう。</p> <p>・今までで心に残っている出来事を思い出したり, 家族に聞いたりして表にまとめましょう。</p> <p>2. この中で今の自分にとって大切な出来事, 思い出してがんばることのできる日, 忘れてはいけない日はどれでしょう。</p> <p>3. 自分や友達の記念日に名前をつけて, 図工で作ったカレンダーに書き込みましょう。</p> <p>4. 記念日にどんなことを企画するか考えましょう。</p>	<p>【授業資料3】</p> <p>※思い出の写真や作品, 賞状</p> <p>※日記や作文</p> <p>※家族へのインタビュー</p>	<p>・幼稚園のときに家族で遠足に行った。</p> <p>・なわとびで3分間とべた。</p> <p>・九九が全部言えた。</p> <p>・長なわ大会でうちのクラスが優勝した。</p> <p>・給食を初めて時間内に全部食べて, 先生に褒められた。</p> <p>・初めて二重とびがとべた日。がんばれば必ずできるようになると自分を励ますため。</p> <p>・〇〇さんと友達になった日。けんかしたときに友達になってうれしかった日を思い出して仲直りするため。</p> <p>・ボールをなげて教室の窓ガラスを割った日。危ない遊び方をしてはいけないことを思い出するため。</p> <p>・なわとびの日</p> <p>・友だちの日</p> <p>・安全の日</p> <p>・友だちとミニなわとび大会を開く。</p> <p>・友だちに感謝の手紙を送る。</p> <p>・安全チェックをする</p>



第3次「うちの記念日」をつくろう

	教師の発問	資料・体験	予想される子どもの発言
6 歴 史 を つ く る	<p>1. 自分一人ではなく、家族の記念日も作ってカレンダーに書き込んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残っている家族全体のできごとをあげましょう。</li> <li>・どの出来事があった日を家族の記念日にしますか？家族会議を開いて決めましょう。</li> <li>・家族の記念日を発表しましょう。</li> <li>・みんなどんな日を記念日していると言えますか。</li> </ul> <p>2. 「記念日」とはどんな日でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからみんなが中心になって「家族の記念日」のイベントを企画しましょう。</li> </ul>	<p>【授業資料4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※家族インタビュー</li> <li>※家族写真等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引っ越しをした</li> <li>・家を建て替えた。</li> <li>・家族ではじめて旅行した。</li> <li>・「引っ越し記念日」：ひっこししたばかりのころは周りになじめなくて、苦労したけど家族で助け合って乗り切ったから。</li> <li>・「優勝記念日」：お兄ちゃんが初めて柔道で優勝してみんなで大喜びしたから。</li> <li>・家族の気持ちが通じ合った日。</li> <li>・家族と一緒に喜んだり悲しんだりした日</li> <li>・家族で心ひとつにあわせてがんばった日</li> <li>・忘れてはいけない日</li> <li>・ずっと覚えておく日</li> <li>・自分たちにとって意味のある日</li> <li>・みんなで心をひとつにする日</li> </ul>

第1次「『記念日』ってどんな日？」は、「1. 日常の中の「歴史」に気付く」「2. 日常の中の『歴史』の意味に気付く」段階である。カレンダーの中にある記念日に着目し、その意味について歴史的に考察することで、日常にある歴史の存在や意味に気付かせるものである。第2次「わたしの記念日をつくろう」は、「3. 自分や家族など身近な人の過去の出来事をふりかえる」「4. 過去の出来事を価値づける」段階にあたる。はじめに、第1次の記念日の学習を振り返り、「自分の記念日をつくって、カレンダーに書き込もう」という目標をもつ。そして、心に残っている過去の出来事から、自分にとって意味のあるものを選び、「記念日」として価値づけていく。「5. 歴史をつくる」の段階にあたる第3次「『うちの記念日』をつくろう」では、さらに家族の記念日をつくる活動を取り入れる。家族の記念日について家族と話し合い、自分だけでなく家族にとって意味のある日、みんなで心をひとつにする日を記念日とすることで、家族のつながりを再構成したり、見直したりできるようにする。

このように、「記念日」という日常の歴史的な構築物を分析し、自らも「記念日」という形で過去の出来

事を再構成していくことで、子どもは自分と歴史との関わりを実感し、身の回りの出来事やものごとを歴史的に捉えようとする態度を身に付けることになる。

## 6. 研究の成果と課題

本研究では、小学校生活科において歴史学習を行うことの意義について明らかにし、「歴史する (doing history)」の観点から小学校生活科における歴史授業の構成原理を提案した。

本研究の成果は以下の2点である。

1つは、小学校生活科における歴史学習のあり方を提案したことである。生活科は自分と社会、自然、自分自身との直接的な関わりを通して、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する教科である。しかし、直接的な経験を保障することは難しいという立場から、子どもと歴史との関わりについてはこれまで必ずしも積極的に扱われてはこなかった。本研究では、日常生活の中にある歴史に焦点を当て、それらとの直接的なかわりを通して、歴史の見方・考え方の基盤を育成する方法を示したことに意義がある。

2つめは歴史的経験（「歴史する (doing history)」）

を取り入れた歴史授業構成について提案したことである。自分と歴史の関わり、あるいは自己にとっての歴史の意義を理解しないまま歴史を学習することは、歴史を現実から切り離す、いわば知識偏重の教育となる可能性をはらんでいる。直接経験を重視する生活科において「歴史する (doing history)」の授業を行うことは、生活科の主旨に適うだけでなく、子どもの、歴史を学ぶ意義の理解を助けることになるだろう。

「歴史する (doing history)」の理論を取り入れた小学校生活科の授業実践を行い、子どもの歴史観の形成及び変容を分析することが今後の課題である。

#### 【引用文献】

- (1) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成29年度告示)』 東洋館出版社, p. 112.
- (2) 寺西和子 (1991) 「経験と知識創造」 日本教育方法学会『教育方法学研究』第17巻, p. 58.
- (3) 星 瑞希, 鉦 悠介, 渡部 竜也 (2020) 「『歴史する (doing history)』の捉え方の位相: 多元的社会における歴史教育のあり方」 日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』 42(4), p. 26.
- (4) 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について」 p. 155.
- (5) キース・C・バートン, リンダ・S・レヴスティク/渡部 竜也, 草原和博, 田口 紘子, 田中伸訳 (2015) 『コモングッドのための歴史教育 社会文化的アプローチ』 春風社, p. 48.
- (6) Linda B. Bennet, James B. Kracht (2019) *my World INTERACTIVE*, Savvas LEARNING COMPANY, pp140 - 159.
- (7) 梅澤真一 (2019) 「第34回価値判断力・意思決定力を育成する社会科授業研究会」 pp. 1 - 9.
- (8) 前掲書 (3), pp. 34 - 35.
- (9) 前掲書 (3), pp. 26 - 27.
- (10) 前掲書 (3), p. 34の表を参考に作成した。
- (11) 服部一秀 (2012) 「中等一貫歴史カリキュラムにおける歴史文化探究力の育成 - ザクセン州ギムナジウムの歴史科 (第5~12学年) の場合 - 」 全国社会科教育学会『社会科研究』 76, p. 1.

## The way of History Education in Living Environment Studies

### History Education based on the "doing history"

Michiko Kamita

*Department of Primary Education, Faculty of Education, Okayama University of Science  
1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005*

(Received October 12, 2021; accepted December 9, 2021)

This study propose the construction of historic lesson plans in Living Environment Studies. It has two main points of significance.

First for the purpose of historical Perspective, this study propose a construction principle for living environment studeis, which is based on "doing Histry". Second, based on the above principles, this study introudece a possible lesson plan for early elementary grades, "My anniversary "

**Key words:** historical perspective, Living Environment Studies, "doing history", historic education, historic objects